

令和6年度
大分県立農業大学校
第2回 外部評価委員会



と き:令和7年2月25日(火)
と ころ:農業大学校会議室

次 第

1 開 会

2 学校長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 事 （進行：委員長）

（1）令和6年度取り組み状況からの自己評価

（2）その他

6 閉 会

令和6年度 重点目標と具体的取り組み結果について

運営方針1 活気あふれる学園づくり

【数値目標】 基礎学力を備えた入学生60名の確保

1 高校進路指導および高校生への積極的な働きかけ

(1) 農業系高校及び過去5年間に入学実績のあった県内の高校への訪問、情報提供

- ・高校3年生に向け農大紹介リーフレット、学校要覧、学生募集要項配布
- ・オープンキャンパスや農大祭案内、農大卒業生の進路情報、大学編入状況の提供
- ・高校訪問の実施

対象校：公立13校・私立4校 計17校

実施回数：延べ28回

- ・農大校、振興局及び高校担当者との連携会議の実施 6/3

(2) 進路ガイダンス等への積極的な参加による学校説明

公立7校 9回実施（日出総合高校、大分東高校、佐伯豊南高校、三重総合高校、久住高原農業高校、玖珠美山高校、情報科学高校）

私立1校 1回実施（明豊高校）

(3) オープンキャンパス「緑の学園」への参加促進

生徒：第1回目（R6.6.23）37名（前年27名）

第2回目（R6.8.3）36名（前年54名）

第3回目（R6.11.9）20名（保護者等含む）

計 93名（前年81名）

保護者・教員：第1回15名、第2回29名

計 44名（前年50名）

総計137名（前年131名）

2 高大連携の強化

(1) 高校への出前授業や農大体験研修の実施

- ・三重総合高校への出前授業派遣や農大での実習
- ・「くじゅうアグリ創生塾」との連携

農業機械研修1回 11/15

スマート農業研修1回（北海道大学他） 1/15

(2) 高校生への農大における課題研究等の紹介

- ・農業系高校1年生農大体験研修 9校10学科
(国東高校、日出総合高校、大分東高校、佐伯豊南高校、三重総合高校、
久住高原農業高校、玖珠美山高校、日田林工高校、宇佐産業科学高校)

(3) 高校PTA研修における農大視察の促進

大分東高校、久住高原農業高校、宇佐産業科学高校

3 多様な人材確保に向けた取り組み

(1) 就農相談会等への積極的な参加

進路ガイダンス 6回

就農フェア 5回

(2) 情報発信の取り組み

- ・インスタグラムによる情報発信
記事数 715 フォロワー1,143人(令和7年1月末現在)
- ・市町村、JA、コンビニ等への募集ポスター掲示
県内18市町村役場、JA27事業所・支所、ファミリーマート、ローソン、
大分からあげ 計 400枚配布
- ・地区別指導農業士会との意見交換 中部9/10、南部2/11
- ・豊肥地区女性指導農業士と女子学生との交流会 2/3
- ・販売活動等を通じた農業大学校のアピール
トキハわさだタウン 6/9、パークプレイス 6/16、
農大肥育牛の精肉販売(あけのアクロス) 7/13
OABマルシェ 8/25~26、OAB感謝祭 10/12~13、
大豆収穫体験(大塚製菓・トキハインダストリー) 10/12
県農林水産祭 10/19~20、農大祭 11/9、ぶんごおおのフェスタ 11/17、等
- ・テレビによる学校紹介と学生募集
OBS番組「ハッジパッジTV」にて放映
TOS番組「ゆうわくワイド」にて放映
OAB番組「じもっと」にて放映
- ・スタディサプリによる「リクルート」
学校案内、募集要項の資料請求への対応

(参考) 令和7年度入学試験実施状況と合格者数

(1) 推薦入試・一般入試・二次募集・三次募集

	実施日	受験者数	合格者数
推薦入試	10月8日	24名 (4名)	23名 (4名)
一般入試	12月6日	6名 (0名)	5名 (0名)
二次募集	2月21日	2名 (1名)	名 (名)
三次募集	3月27日	名 (名)	名 (名)
計		32名 (5名)	28名 (4名)

() 内は女子

(2) 過去5年間の受験者数と入学者数

年度	R3	R4	R5	R6	R7
受験者数	42名	33名	42名	31名	32名
入学者数	37名	31名	35名	26名	名

(3) 過去5年間の農業系学科出身者の入学者数

年度	R3	R4	R5	R6	R7
農業系学科出身	24名	21名	24名	18名	15名
対入学者比率(%)	64.9%	67.7%	68.6%	69.2%	%

【評 価】

令和7年度入学予定者数 26名 (43.3%) (R7.1現在)

(自己評価)	(委員評価)
1 目標を完全に達成	1 目標を完全に達成
2 目標をほぼ達成 (80%以上)	2 目標をほぼ達成 (80%以上)
3 目標を未達成 (50~80%)	3 目標を未達成 (50~80%)
④ 目標を著しく未達成 (50%以下)	4 目標を著しく未達成 (50%以下)

運営方針 2 質の高い教育の提供

【数値目標】 ○日本農業技術検定3級相当の専門知識習得者80%以上

○在学中に5個以上の資格取得者80%以上

1 農業技術検定取得に向けた取り組み

(1) 農業技術検定未取得者に対して模擬試験等の実施

- ・テキストとともに過去の問題集等を購入、配布
- ・試験前に講義の中で対策を実施（各コースで対応）

2 プロジェクト研究の高度化と地域課題への対応

(1) 農林水産研究指導センター・振興局・農業法人との連携プロジェクトの強化、充実

- ・設計検討、中間検討、成績発表における研究員や広域普及指導員からの指導
- ・課題設定に向け農業法人からの要望課題募集
- ・民間等との連携課題 3課題

(2) 九州大会・全国大会への出場を目指したプロジェクト指導の強化

- ・九州大会にプロジェクト・意見発表（長崎県） 1/15～16

（プロジェクト発表の部）

「もちとうもろこしの栽培マニュアルの検討」

総合農学科 2年 工藤優斗 田邊祥多

「畜産共進会出品に向けた飼養管理技術の習得・向上への取り組み」

総合畜産学科 2年 笠木啓太郎 時枝旺雅

（意見発表の部）

「夢は6次産業化！～乳牛と家族と私～」

総合畜産学科 1年 松尾百香

- ・全国大会（東京） 2/4～7

(3) 表現力の向上を目指した作文コンクール等への応募促進

ヤンマー学生懸賞・作文コンクール 果樹コース1年生4名応募 奨励賞1名

3 農業法人等の期待に応えられる学生の育成

(1) 農業・農村のリーダー・指導者の育成を目指した「総合経営特別講座」の実施

講座：企業経営論、アグリビジネス論、消費者ニーズとマーケティング、
農業簿記、農業経営分析、農村社会学

(2) 各種資格取得の推進

- ・フォークリフトの受講料を納入金に加えた結果、2年生で16名、1年生で3名が受講
- ・免許・資格5個以上取得者 7名（令和6年度卒業生）
- ・フラワーデザインコンテストへの1、2年生全員（4名）が参加し、受賞
大分県知事賞：1年男子

(3) GAP手法の実践とGAP認証に向けた学習の実施

- ・水田・露地野菜クラス 認証取得の点検手法などのコンサルティング 2回

(4) 校内直売所や量販店等でのマーケティング調査の実施

- ・染色輪ギクの市場調査（大分園芸花市場）
- ・枝豆の品種の食味調査（校内直売所）
- ・経産牛肥育の食味調査（農大祭）

(5) スマート農業等の先進技術の研修

- ・ロボット田植機の実演 6/27
- ・全国スマート農業研修会（北大主催） 1/15
- ・スマート農機実演会（JA主催） 3/7

(参考) 令和6年度農業大学校学生・就農準備研修生免許資格等取得状況

免許・資格種類	学生	研修生	合計
大型特殊免許（農耕車限定）	29名	26名	55名
けん引免許（農耕車限定）	22名	14名	36名
フォークリフト運転技能講習	16名	16名	32名
アーク溶接作業	21名	5名	26名
ガス溶接技能講習	20名	3名	23名
ボイラー取扱技能講習	13名	6名	19名
車両系建設機械運転技能講習	12名	8名	20名
農業技術検定2級以上	3名	4名	7名
簿記3級	4名	5名	9名
家畜人工授精師	8名	3名	11名

【評 価】

日本農業技術検定3級以上取得者 14.8% (8/54)

在学中に5個以上の免許・資格取得者 23.3% (7/30)

(R7.1現在)

(自己評価)	(委員評価)
1 目標を完全に達成	1 目標を完全に達成
2 目標をほぼ達成 (80%以上)	2 目標をほぼ達成 (80%以上)
3 目標を未達成 (50~80%)	3 目標を未達成 (50~80%)
④ 目標を著しく未達成 (50%以下)	4 目標を著しく未達成 (50%以下)

運営方針3 農業の担い手確保

【数値目標】 全学生・研修生の就農率80%以上

1 農学部

(1) 農業法人等との就職相談会の拡充

・就職相談会の開催 5/10 44 法人参加

(2) 農業法人との情報交換および連携強化

・農業法人との交流 6/3 10 法人参加

(3) 進路コーディネーターや担任による進路面談、受験指導の充実

・進路指導の流れ

1年生対象：進路面談 (11月)、三者面談 (2月)

2年生対象：進路面談 (5月)、随時個別面談

(4) インターンシップ等研修への参加促進

随時就職希望先でのインターンシップを実施

(5) 保護者の農業視察研修による就農への理解促進

後援会による先進地視察研修 11/27 (九重愛菜ファーム)

(6) 卒業生のフォローアップ指導

・卒業生の就職先への訪問 12 法人

・相談のあった離職者への再就職斡旋 3 件

2 研修部

- (1) 就農に係る講義や先進農家研修による就農意欲の喚起
 - ・研修生受講講義
農業基礎、野菜園芸、農業機械、GAP、土壌肥料、植物生理、栽培施設、農畜産物流通、病害虫と防除、簿記基礎、農業総論、農業気象
 - ・先進農家等視察研修
指導農業士への視察研修 10/4
共進会、市場等の視察研修（畜産） 2/19～21
- (2) 組織・就農相談会等への参加や農業法人等求人情報の提供とマッチングの実施
 - ・就職相談会の開催 5/10
 - ・豊後大野市ピーマン部会からの情報提供 9/12
 - ・由布市白ネギ就農の情報提供 12/11
- (3) 個別面談による研修生の要望や資質に応じた就農コーディネート
 - ・研修生：早期の面談実施 5月、8月
- (4) 進路コーディネーターによる就農支援
自営、雇用就農に向けた準備等支援（随時）
- (5) 集落営農コースの新設
白ネギ 20a、カンショ 30a
機械操作、出荷調整作業等研修
- (6) 振興局との連携による就農支援
 - ・振興局、市町との連携会 2/6（振興局担当者と就農予定者の顔合わせ）
- (7) 新たな研修生確保のためのSNS等による情報発信
 - ・農業機械研修等を情報発信

（参考）進路状況

【農学部】進路状況（令和7年1月末現在）

	対象者	自営	雇用	計	就農率
学生	29	3	13	16	55.2%
		JA・公務員	関連企業	進学等	他産業
		4	5	2	2

農学部過去5年間の就農率（%）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
就農人数	41	24	33	20	14	16
就農率	73.2%	75%	76.7%	58.8%	50.0%	55.2%

【研修部】進路状況（令和7年1月末現在）

	対象者	自営	雇用	計	就農率
研修生	23	13	10	23	100%
		他産業			
		0			

【評 価】

就農率 75%（農学部55%、研修部100%）（R7.1現在）

（自己評価）	（委員評価）
1 目標を完全に達成	1 目標を完全に達成
2 目標をほぼ達成（80%以上）	2 目標をほぼ達成（80%以上）
③ 目標を未達成（50～80%）	3 目標を未達成（50～80%）
4 目標を著しく未達成（50%以下）	4 目標を著しく未達成（50%以下）

令和7年度 年間学校行事（予定）

月	学校行事			学生会	後援会等
	儀式的行事	一般的行事	保健安全的行事		
4	新任式・開講式 入寮式・入学式 (4/11)	けん引研修（農耕用） 農業法人等との就職相談会(4/18)	環境整備 健康診断	入寮式 歓迎スポーツ大会	
5		大型特殊研修（農耕用） 農大説明会・振興局との連携会 第1回外部評価委員会	防災訓練 一斉清掃	近県スポーツ 大会	後援会監査・役員会 後援会総会(5/23)
6		国内農業体験研修 プロジェクト中間検討会 大型特殊研修（農耕用） 農産物直売「みどりの風」開所式	環境整備委員会	九州地区リーグ 研修会 どろんこバレー ボール大会	九州地区後援会長会議
7		オープンキャンパス「緑の学園」 日本農業技術検定試験 けん引研修（農耕用） エンジン分解・組立研修 車両系建機（整地等用）運転技能講習	環境整備		同窓会総会
8	夏期休業	オープンキャンパス「緑の学園」 ボイラー取扱技能講習 アーク溶接作業特別教育 フォークリフト運転技能講習			
9		前期試験 大分県家畜商講習会 プロジェクト計画発表会		九州地区農大親 善体育大会	
10	後期開講式	先進農家等体験学習 大分県農業祭への出店 農学部推薦入学試験願書受付・試験 けん引研修（農耕用）			後援会研修
11		家畜人工授精師講習会 先進農家等体験学習報告会 危険物取扱者試験 大型特殊研修（農耕用）	環境整備	農大祭(11/8)	農大祭
12	冬期休業	農学部一般入学試験願書受付・試験 大型特殊研修（農耕用） 校内プロジェクト・意見発表会(12/12) 日本農業技術検定試験			
1		九州地区農大プロジェクト・意見発表会 ガス溶接技能講習 大型特殊研修（農耕用）			
2	閉講式 退寮式	卒業試験 卒業論文提出 全国農大プロジェクト・意見発表会 第2回外部評価委員会 後期試験			後援会役員会
3	卒業式(3/13) 修了式	入学説明会 小型車両系建設機械運転特別教育	環境整備		

大分県立農業大学校 学校評価要領

平成 23 年 7 月 1 日 制定

(目 的)

第 1 条 この要領は県農業の担い手育成のために求められる質の高い教育を提供するとともに、地域に根ざした開かれた大学校づくりを推進するため、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づき、大分県立農業大学校(以下「農大」という。)が行う学校評価について定める。

(自己評価)

第 2 条 農大校長は、教育・研修活動その他学校運営の改善を図るため、毎年度重点目標を定め、その達成に必要な評価項目などを設定の上、運営の状況等についての評価(以下「自己評価」という。)を行う。

2 自己評価を実施するため、別紙 1 に定める学内評価会議を設置する。

(外部評価委員会等)

第 3 条 農大が実施した自己評価の結果を踏まえた評価(以下「外部評価」という。)を行うため、農業大学校外部評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、校長が委嘱する別表 1 の委員で構成する。

3 委員の任期は 2 年とし、再任は妨げない。委員に欠員が生じたときは、これを補充することができることとし、その任期は前任者の残任期間とする。

4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

5 委員長は委員会を掌理し、副委員長は委員長に事故ある場合はその職務を代理する。

6 農大校長は、外部評価等のため農大の運営・教育・研修の状況、自己評価の結果などについて委員会に報告する。

7 委員会は、外部評価の結果を学校運営に関する意見とともに農大校長に報告をする。

8 農大校長は、委員会からの報告をもとに必要な措置を講ずる。

(公 表)

第 4 条 農大校長は、自己評価の結果及び外部評価の結果並びに意見について、農大のホームページなどに公表するとともに、大分県農林水産部新規就業・経営体支援課に報告する。

(その他)

第 5 条 自己評価の実施方法その他学校評価に関することは、農大校長が別に定める。

(別表1)

農業大学校外部評価委員

区 分	関係機関名	職 名
教育関係者	大分県高等学校 教育研究会農業部会	部 会 長
生 産 者	大分県指導農業士会	会 長
〃	大分県農業法人協会	会 長
〃	地元女性農業者	
〃	地元農業関係者	
卒 業 生	大分県立農業大学校同窓会	副 会 長
農業団体	大分県農業協同組合	常務(営農担当)
行 政	豊後大野市	農業振興課長
	大分県	中部振興局農山漁村振興部長

平成23年7月 1日 制定

平成24年4月 1日 改正

平成28年4月 1日 改正

平成31年4月26日 改正

令和 4年4月 1日 改正

専修学校（農業大学校）における学校評価に関する法令

- 専修学校の学校評価は、平成19年の学校教育法及び同施行規則の改正により、①自己評価の実施・結果の公表に関する義務、及び②学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課されている。

学校評価に関する関連法令

■学校教育法（抄）

第四十二条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行ない、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第四十三条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

■学校教育法施行規則（抄）

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとする。

第六十八条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※これらの規程は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、専修学校、各種学校に、それぞれ準用する。[学校教育法第133条、学校教育法施行規則第189条等]

専修学校における学校評価ガイドライン（平成25年3月）
文部科学省 生涯学習政策局 より